

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 淀川区
学校名 西三国小学校
学校長名 新木 克昌

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・西三国学校では、第6学年 99名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、全国の平均正答率に対して国語は4.8ポイント、算数は5.0ポイント、理科は3.1ポイント下回った。平均無解答率については、国語が4.2ポイント、算数が5.6ポイント、理科は5.4ポイントであり、全国の平均無回答率を上回る結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

国語科については全国平均の-4.8ポイント（昨年度は-2.7）となっている。漢字や語彙等を問う基礎的な分野では、平均正答率が全国を上回る問題もあり、全国水準にある。一方で「読むこと」の領域では大きく落ち込む結果となった。特に言葉の変化や違い、事柄の順序、文章や図表などから必要な情報を見付けて記述するなど「思考・判断・表現力」に課題がある。

[算数]

算数科については全国平均から-5.0ポイント（昨年度は-3.4）となっている。「数と計算」の基礎的な計算や「測定」の領域では、平均正答率が全国を上回る問題もあり、全国水準にある。一方で「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で、全国の平均正答率を大きく下回る問題があり、分数小数の活用、データの読み取り、グラフを根拠に説明すること、考え方を言葉や式で表すことに課題がある。

[理科]

理科については全国平均の-3.1ポイントとなっている。「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国を上回っている。一方で「粒子」を柱とする領域等の他の領域では、全国の平均正答率を下回っている。平均正答率が低い問題から、実験や観察をもとに考察を言語化する力に課題がある。

国語、算数、理科に共通して、必要な情報から読み取ったことを記述する問題を苦手としている傾向がみられた。

質問調査より

教科についての質問項目では、国語「解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」、算数「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」、理科「解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の項目で「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した者は、全国と比べて【国-21.7 算-25.6 理-25.3】と記述式の問題に苦手意識があることがうかがえる。

「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の項目は、「当てはまる」と回答した児童の割合は全国を上回り、昨年度と同様に肯定的に回答する児童が多かった。ただ「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の質問に対しては、1時間未満と回答している児童の割合は59.2%（昨年度は56.9%）であり、家庭学習の時間が十分とは言えない結果がみられる。引き続き児童が学ぶ楽しさを感じ、学ぼうとする意欲を高める授業づくりに加えて、家庭との連携を強化していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

今年度もすべての教員が「一人一授業」の取り組みとして授業公開をするとともに、教員が参観できる環境を整え、実践的な研究に力を注ぐ。また、「学力向上支援チーム事業」を活用して指導助言を受けたり、学校全体で指導案検討会・討議会を行う授業研究会を実施したりすることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、児童が自力解決できる力を伸ばすことにつなげたい。効果的な学習形態の工夫を探るとともに、「タブレットドリル」「ナビマ」などICT教材を活用し、各教科の基礎的・基本的内容の定着率を高められるように、個別最適化した学びを提供する。また分析した課題を、全教職員で共有し、学力向上に取り組むために個に応じた支援の方法を探り、スマールステップで達成感を味わわせるようにする。

さらに、大阪市の様々な施策を生かし、学びサポーター、ブロック予算による授業の充実を図るとともに、学力補充が必要な児童に対して区役所と連携した「放課後わくわく教室」を活用し学力向上につなげていく。ほかにも放課後学習なども取り入れながら、基礎基本を中心とした児童の学力向上に取り組みたい。その上で、保護者、地域、学校が協力して、学校グランドデザインに示した「学ぶ意欲をもち、人と豊かに関わるしなやかな子の育成」を目指す。

【 全体の概要 】

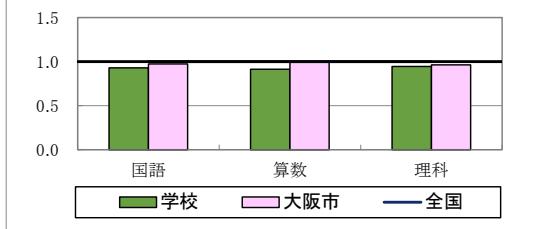
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	62	53	54
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

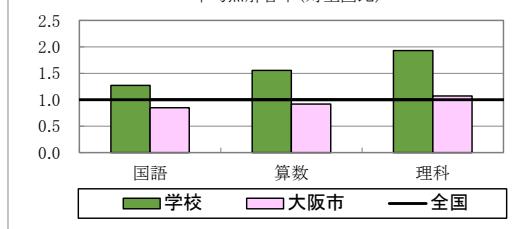
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	4.2	5.6	5.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



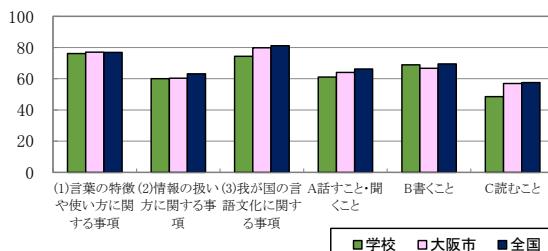
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	76.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	60.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	68.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	48.6	56.9	57.5

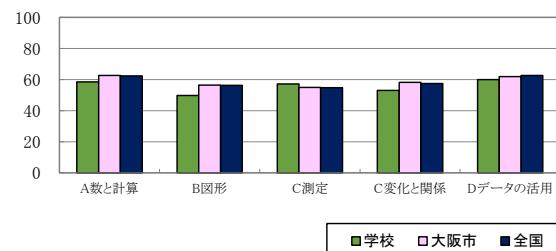
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.5	62.7	62.3
B 図形	4	49.7	56.4	56.2
C 測定	2	57.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	53.0	58.2	57.5
D データの活用	5	60.0	61.9	62.6

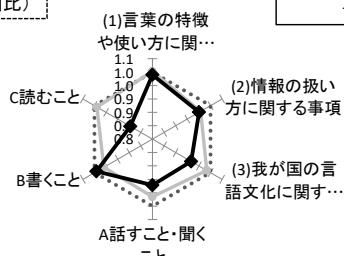
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



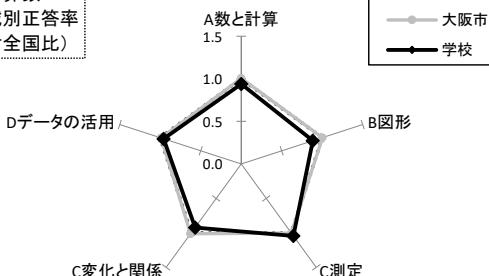
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

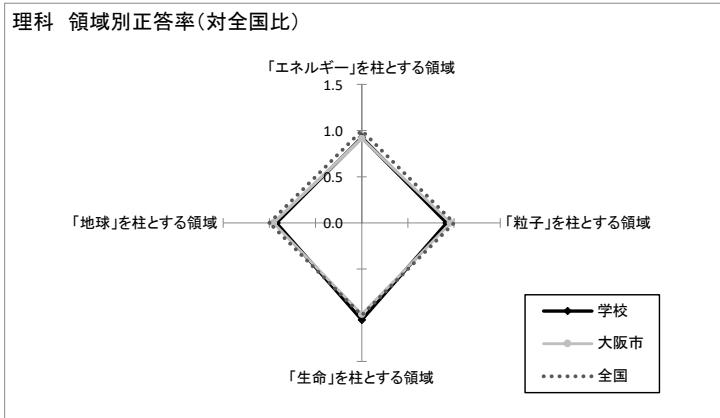
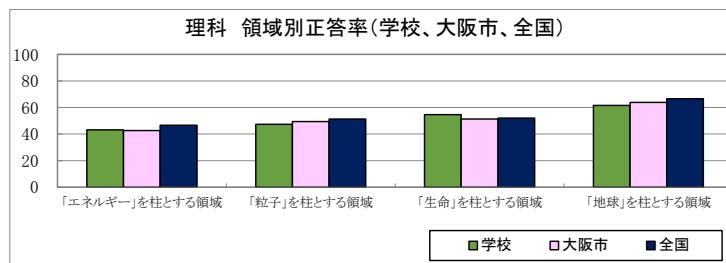


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	43.2	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	47.3	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	54.6	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	61.6	63.8



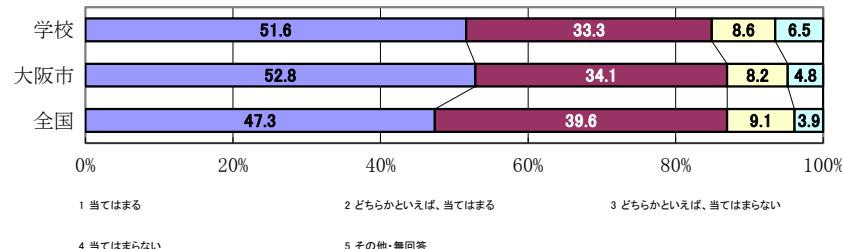
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

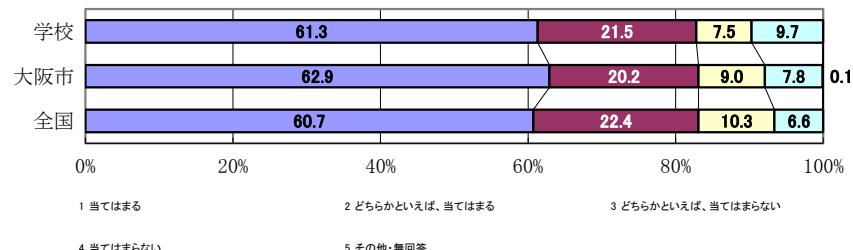
5

自分には、よいところがあると思いますか



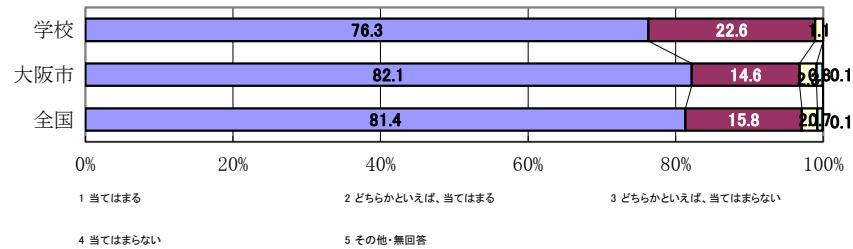
7

将来の夢や目標を持っていますか



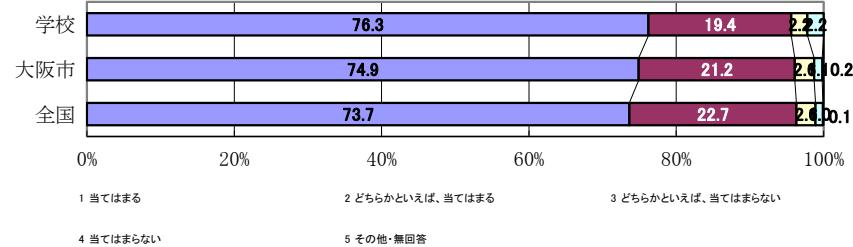
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



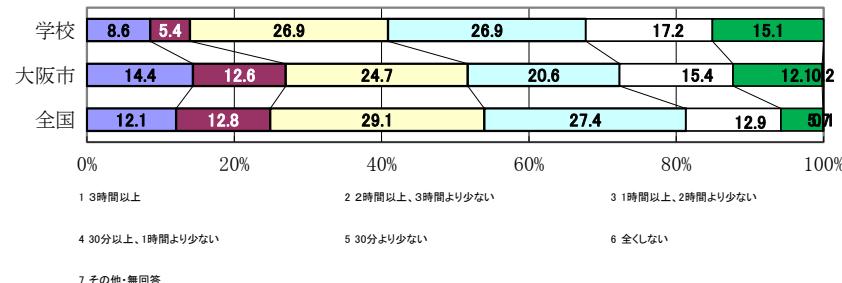
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



学校質問より

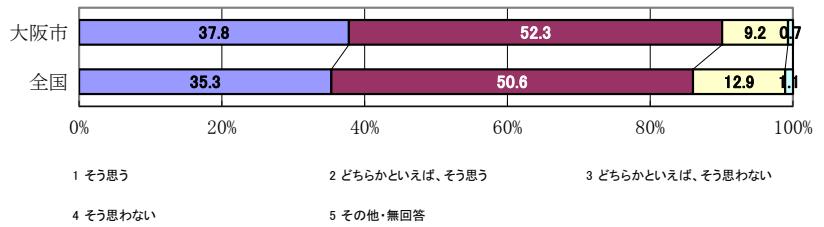
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ちていると思いますか

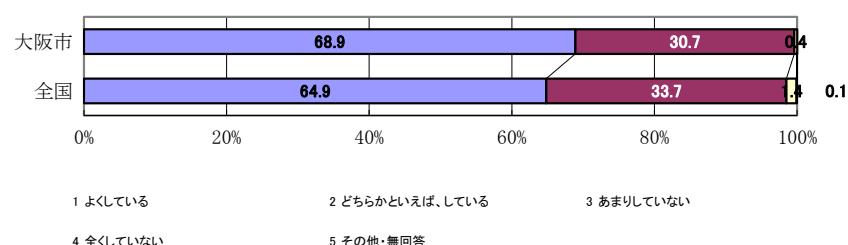
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

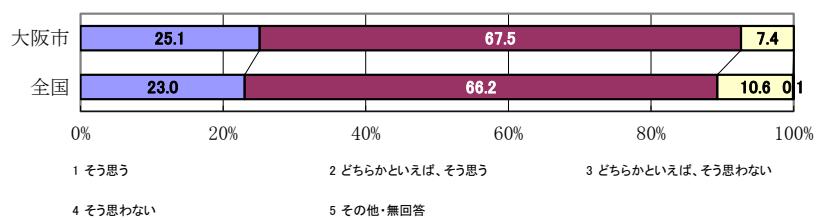
学校 「どちらかといえば、している」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

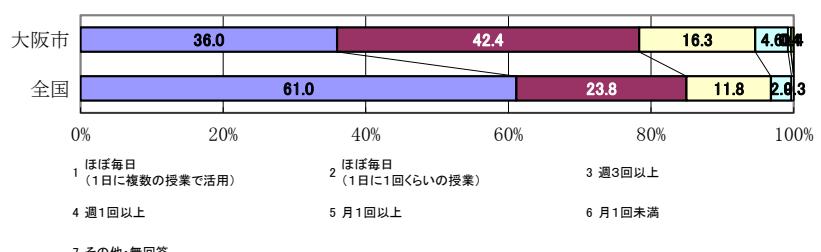
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業での程度活用しましたか

学校 「週1回以上」を選択



学校 「」を選択

